

# 大学の環境教育における地理の役割

## — 三重大大学の共通教育科目「環境教育論」の授業実践を通して —

金玆辰（三重大）・朴恵淑（三重大）

キーワード：大学、環境教育、地理、地図学習

地理教育と環境教育との関係についての先行研究を検討すると、小・中・高の学校地理教育における環境学習の実践が中心となって行われていることがわかる。大学における地理教育と環境教育との関係については、地理学の専門教育や地理教員を養成する教職課程において地理学で環境問題を扱う研究はあるものの、教養教育としての環境教育における地理の役割を論じた研究は少ない。しかし、環境に関する社会的関心が増加する中で、多くの大学では教養教育としての環境関連科目を設置している。この教養教育としての環境関連科目を、地理を専門とする教員が担当することで、生涯学習としての地理教育という役割が付与されるのである。そこで本稿では、筆者らが担当している三重大大学共通教育「環境教育論」の授業実践を通して、教養教育としての大学の環境教育における地理の役割を考察する。2010年度の前期に実施しているこの「環境教育論」の受講生は95名であり、中でも1年生が77名を占める。全学部の学生を対象としており、人文学部32名、教育学部10名、医学部10名、工学部28名、生物資源学部15名という専攻構成となっている。

本授業を通して学生が到達する目標は、次の4つである。① 地域及び地球規模の環境問題に関する現状の把握とその対策に関して、文献調査・野外調査を行う。② 資料の分析・まとめ方を実践的に学ぶ。③ 知識活用や情報伝達の有効な手段となる地図化の技能向上をはかる。④ 環境意識を高め、持続可能な世界のために行動する。全授業の授業前半部においては、環境問題に対する理解を深めるために、ごみ問題と3R活動、エネルギー問題・省エネ、フードマイレージ・地産地消、地球温暖化、生物多様性・COP10というテーマを中心とする授業（6回）を行った。これら授業では、各テーマに関する知識を提供することを目的とした講義とともに、環境問題に興味関心を持たせるための学生活動を入れた。この学生活動とは、ごみ問題と3R活動の授業においては割り箸・マイ箸運動についてのディベート活動、フードマイレージ・地産地消の授業においては買い物ゲームなどを実施した。授業後半部では、三重大大学における環境の現状と課題を明らかにするために、学生自らが身の回りの環境状況を調べる活動（7回）を行い、調べた内容を環境地図としてまとめるようにした。自らの興味に従い専攻の異なる4-5人により構成された班を単位として、学生はグループ活動に取り組んだ。学生の希望した各班の調査テーマは12あり、その内容は次の通りである。[a]エネルギー使用量、[b]木の分布とCO<sub>2</sub>、[c]海水温の変化、[d]涼しい場所、[e]校舎の気温と湿度、[f]ごみ問題、[g]エコバック、[h]大学内の植生、[i]大学内の食物連鎖、[j]大学内の虫、[k]海岸の植物分布、[l]COP10についてである（重複あり）。本発表では、授業の具体的な様子とともに、学生の調査した内容と作成した環境地図を紹介する。